

2025年3月期 Q2決算説明資料

決算発表 : 2024年10月31日

決算説明会 : 2024年11月05日

日本ライフライン株式会社

東証プライム市場 : 7575

Unauthorized copying prohibited.

Copyright © 2024 Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.



...for patient comfort.

01. 2025年3月期 上期決算報告

02. 質疑応答

Appendix 決算補足資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (<https://www.jll.co.jp/investors/>) からダウンロードできます。

01. 2025年3月期 上期決算報告

02. 質疑応答

Appendix 決算補足資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (<https://www.jll.co.jp/investors/>) からダウンロードできます。

	2025/3期 上期
売上高	過去最高 27,985 百万円 (前年同期比 +11.4%)
営業利益	過去最高 6,260 百万円 (前年同期比 + 14.4%)
中間純利益	過去最高 4,435 百万円 (前年同期比 + 10.0%)

決算ハイライト

増収増益

(売上高・営業利益・純利益が半期ベースで過去最高)

外部要因

- (+) AF症例数は前年同期比約10%増
- (-) 公定価格の改定 (24/6~)

内部要因

- (+) コア製品群*1が好調継続
- (+) 新領域は前年同期比75%増
- (-) 販管費の増(一過性の増を含む)

通期業績予想は期初公表(2024/5/1)から修正なし

*1 競争力が高く特に注力する4つの製品 ⇒ ①心腔内除細動カテーテル「BeeAT」、②大腿静脈用止血デバイス、③S-ICD、④Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントトランク) (従来呼称の「オープンステントグラフト」から変更)

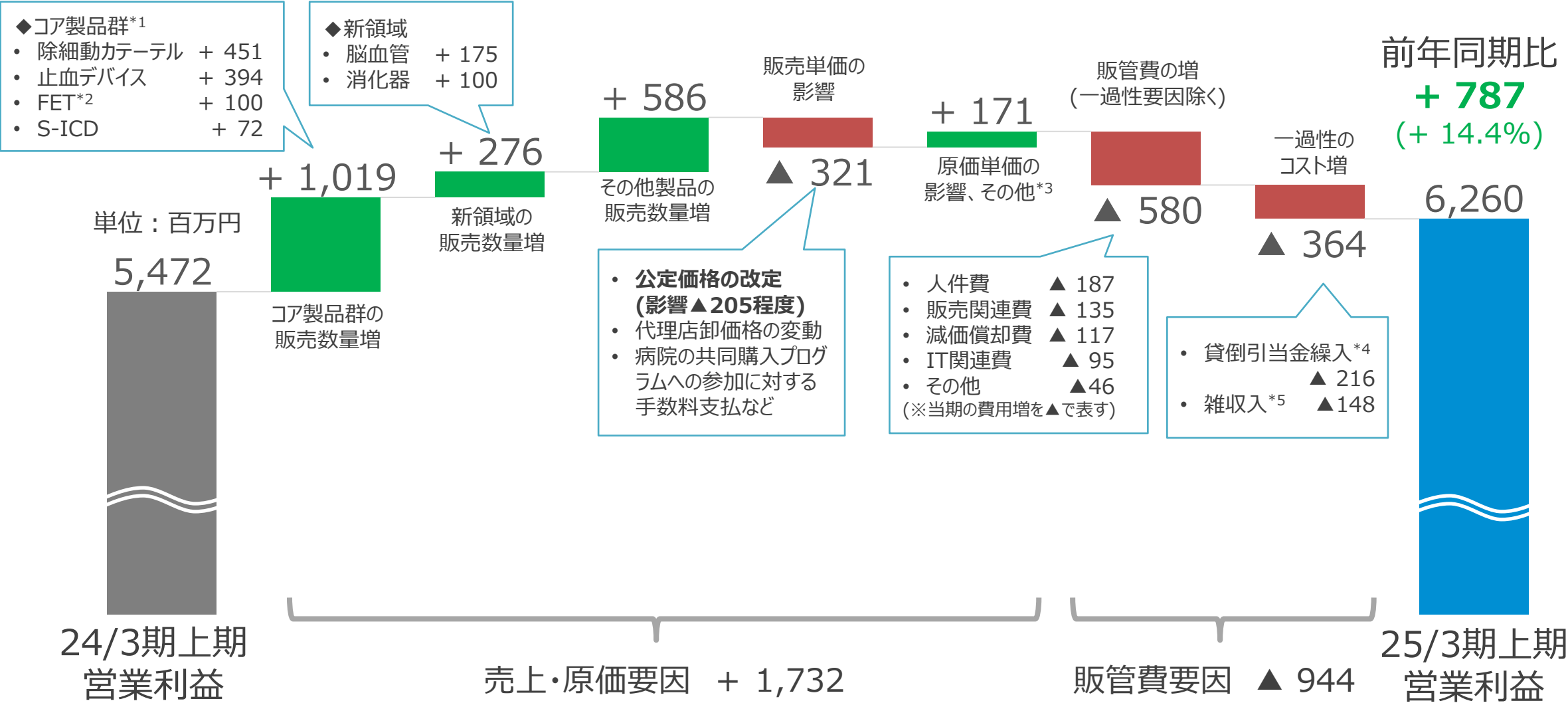
✓ 売上高および各利益はいずれも半期ベースで過去最高を更新

単位：百万円	2024/3期 上期	2025/3期 上期	前年 同期比	前年 同期比%	コメント
売上高	25,132	過去最高 27,985	+ 2,853	+ 11.4	(+) 症例増による販売増 (+) 新領域の拡大
売上総利益	15,231	過去最高 16,963	+ 1,732	+ 11.4	(+) 低採算事業の終了 (+) 自社製品の原価低減 (-) 公定価格の下落
%	60.6%	60.6%		± 0.0pp	
販管費	9,758	10,703	+ 944	+ 9.7	
営業利益	5,472	過去最高 6,260	+ 787	+ 14.4	(-) 販管費の増 ※一過性のコスト増含む
%	21.8%	22.4%		+ 0.6pp	
中間純利益	4,033	過去最高 4,435	+ 401	+ 10.0	(+) 税額控除の適用 ⇒税負担率28.2%
%	16.0%	15.8%		▲ 0.2pp	
自社製品比率	59.1%	57.6%		▲ 1.5pp	(-) 仕入品の拡大*1
1株当たり利益	52.41円	61.87円	+ 9.46円	+18.0	(+) 期中平均株式数 (自己株式除く)の減少

*1 仕入商品の売上高は前年同期比15%増加（自社製品は同8%増加）⇒ 主に脳血管関連やEP/アブレーションの止血デバイス等が寄与

2025/3期 上期 営業利益の増減分析

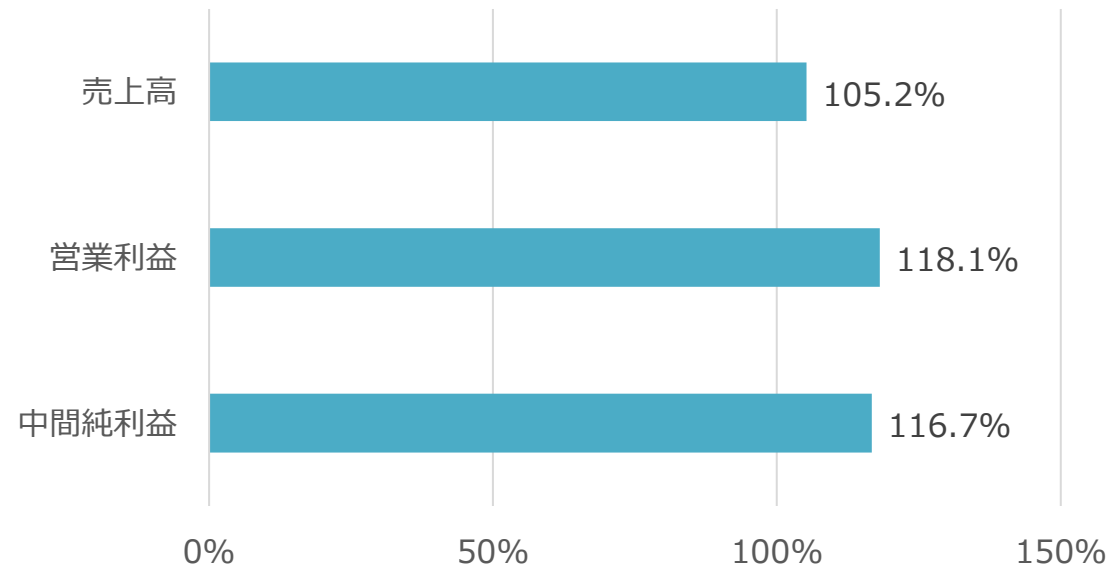
✓ 販売が好調に推移し、販管費の増を吸収して大幅な増益(一過性要因を除いた場合、21.1%増益)



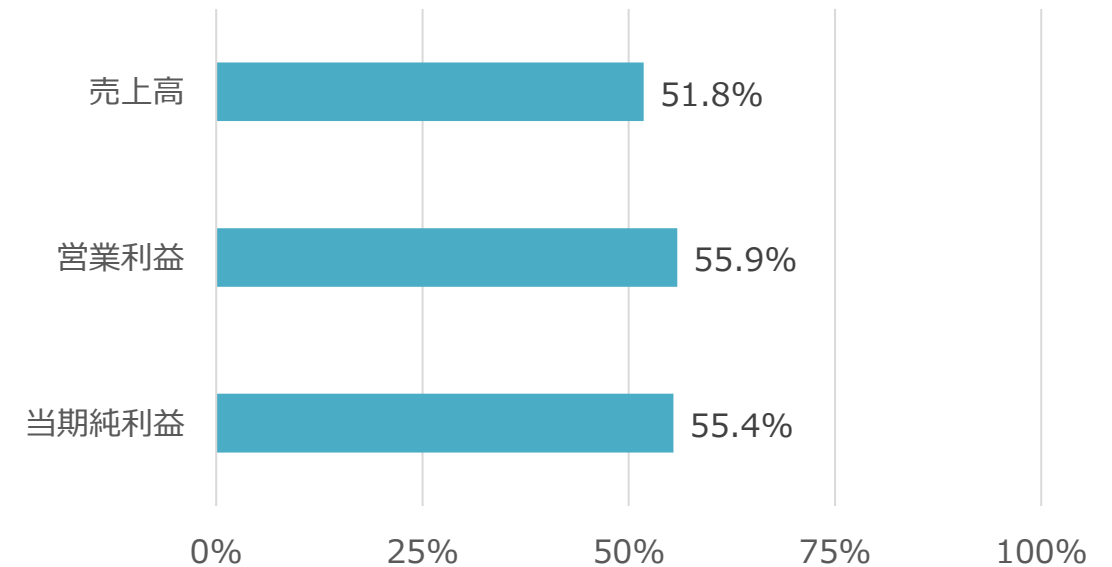
*1 競争力が強く特に注力する製品群 *2 Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントトランク) (従来呼称の「オープンスtentグラフト」から変更) *3 製品廃棄・評価損の影響等を含む *4 Q2で債権回収に伴う貸倒引当金戻入22百万円あり。表示金額はネットの金額 *5 Baylis社製品の販売契約終了に伴う在庫移管に関連する雑収入等

✓ 上期業績は期初予想を上回り、対通期でも順調に進捗中

上期業績進捗率 (対上期予想)



上期業績進捗率 (対通期予想)



既存領域（心臓）【構成比95%】*1

リズムデバイス

26%

- 不整脈を治療する体内植込み型機器など



【コア製品】
S-ICD

安定事業

EP/アブレーション

47%

- 不整脈手術で使われる医療用管など



【コア製品】
心腔内除細動
カテーテル



【コア製品】
止血デバイス

中核事業

心血管関連

22%

- 大動脈の外科手術で使われる人工臓器など



【コア製品】
フローズンエレファントトランク

旧呼称：オープンステントグラフト

新領域 【構成比5%】

脳血管関連

3%

- 脳血管の詰まりを解消する管など



血栓吸引カテーテル



塞栓用コイル

成長事業

消化器

2%

- 消化器の詰まりを解消するステントなど



胆管チューブステント

*1 構成比は24/3期実績

- ✓ 医療機器が手術で使用するたびに売上が発生する
- ✓ 手術件数が増えるほど、売上が増加する

売上高

=

数量

×

単価

手術件数
(症例数)

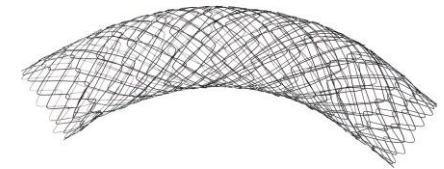
×

当社シェア

公定価格
(保険償還価格)

×

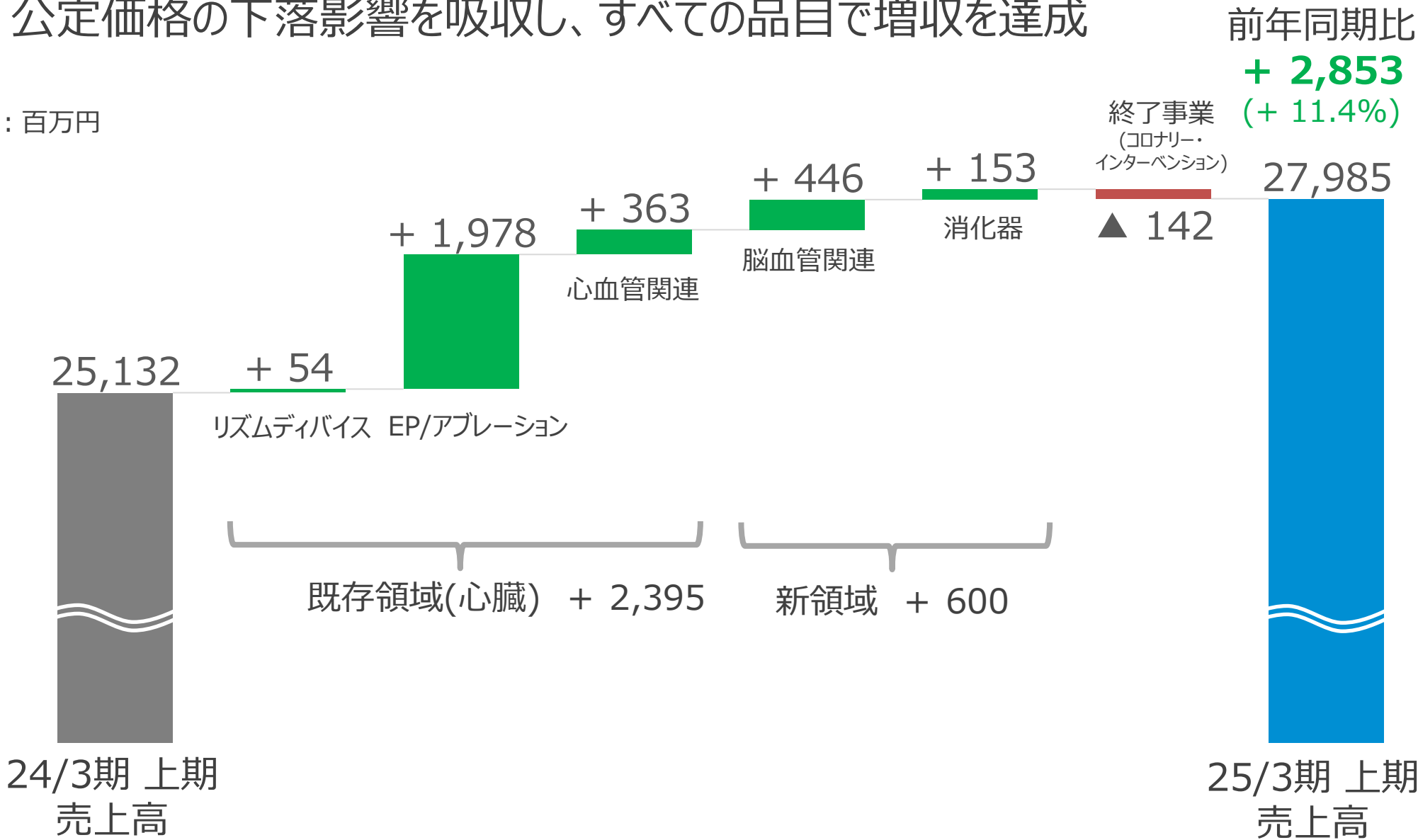
掛率
(代理店卸値)



取り扱い製品のほとんどが、手術で使用する使い切りの医療機器

✓ 公定価格の下落影響を吸収し、すべての品目で増収を達成

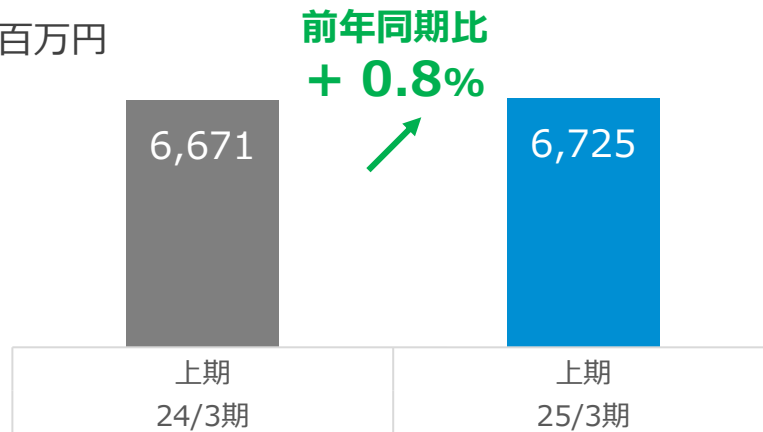
単位：百万円



S-ICDの販売が加速、公定価格改定の影響をカバー

リズムデバイス 売上高

単位：百万円



市況認識

※前Qからの追記、変更を下線で示す

- ペースメーカー・ICD市場は緩やかに拡大
- 公定価格の大幅改定（24/6～）
 - ペースメーカー▲13%、T-ICD▲5%
- 他社のリードレスペースメーカーの市場浸透が進む
(新規市場の約30%)

上期 販売ハイライト

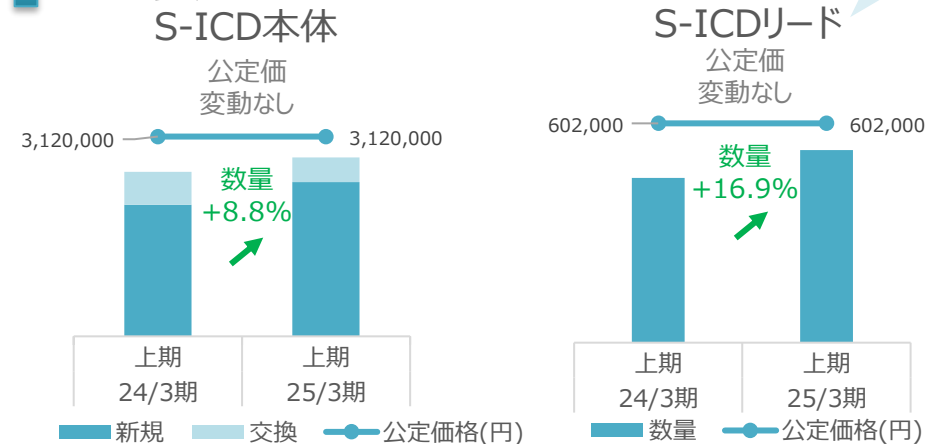
コア製品のS-ICD 9.9%増収

- ICDの新規植込み市場で新規シェア38%、四半期販売レコードを更新
- 医師が植込みを練習するハンズオン企画が採用率アップに貢献

ペースメーカー関連 2.9%減収

- 公定価格の大幅な下落
- 他社リードレスペースメーカーの浸透による影響を受ける

コア製品



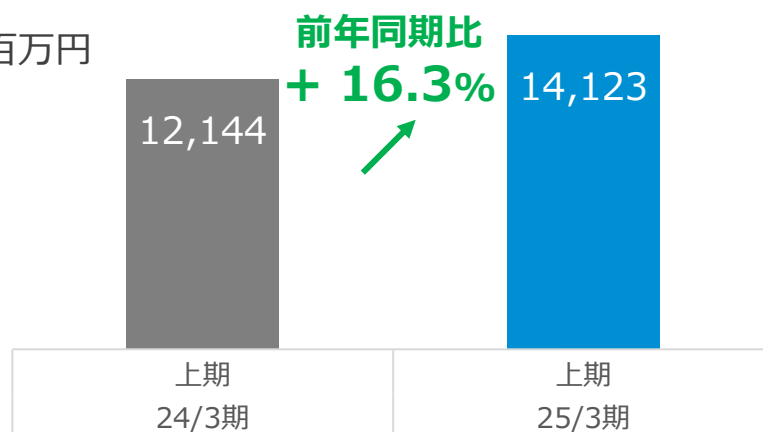
リードは新規症例のパロメータ
 ・ 新規症例：本体とリードがセットで売上
 ・ 交換症例：本体のみ売上



差別化された自社製品が拡大、半期で過去最高の売上高を達成

EP/アブレーション 売上高

単位：百万円



上期 販売ハイライト

- **コア製品の心腔内除細動カテーテル 9.0%増収**
 - 当社オンリーモデルを訴求し市場に浸透中。特にLumen付の新モデルでは新規施設も獲得。推定自社シェア96%(Q2)
- **食道温モニタリングカテーテル 13.9%増収**
- **止血デバイス 順調に拡大 QoQ + 46%**
- **ステーラブルシース 28.5%増収**
 - 6月に上市した改良版を大きく伸ばす

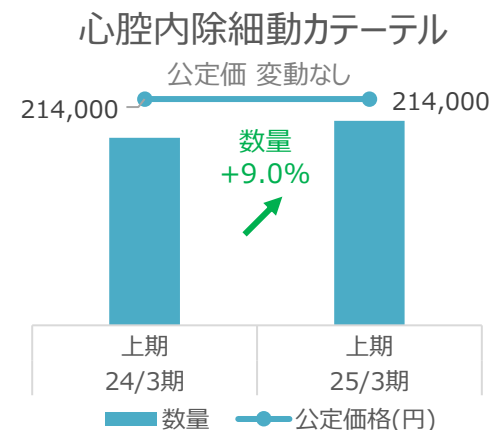
市況認識

※前Qからの追記・変更を下線で示す

- **心房細動(AF)症例数が増加**
 - **前年同期比 + 約10%**
(期初想定は通期で + 8%)
- 公定価格の下落
- 競合外資による国内へのPFA*1の導入が進捗中
(2024/10時点で3社が国内承認取得済み)
- 国内の2社が除細動カテーテル領域へ新規参入

*1 PFA=Pulsed Field Ablation パルスフィールドアブレーション

コア製品



Lumen BeeAT

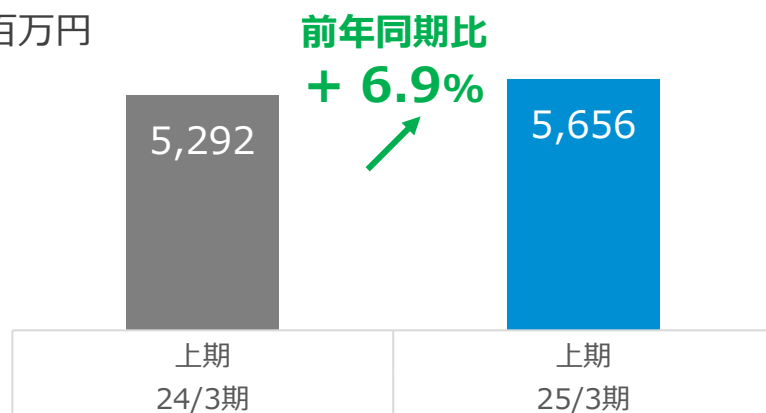
IVC BeeAT

心腔内除細動カテーテル
当社新モデル

Frozen Elephant Trunk(FET)*¹が好調、高成長をけん引

心血管関連 売上高

単位：百万円



市況認識

※前Qからの追記・変更を下線で示す

- **FET症例が増加**
 - 従来は年4~5%成長の当社独占市場
⇒他社参入もあり市場拡大、
直近では年9%程度増加か
- **公定価格の改定**
 - 人工血管 ▲3%、FETは下落なし

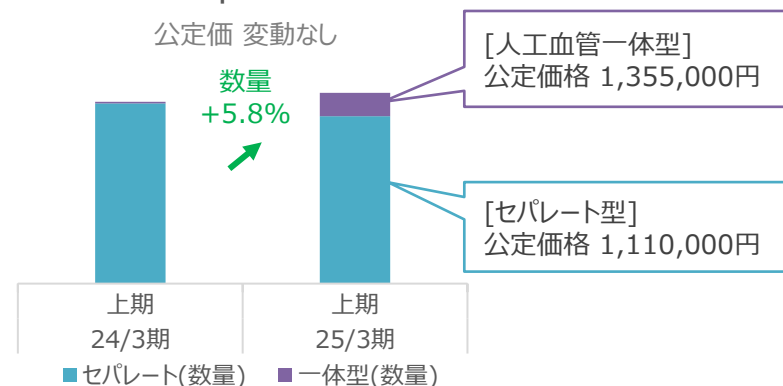
*1 従来呼称の「オープンスtentグラフト」から変更

上期 販売ハイライト

- **コア製品のFET 8.4%増収**
 - 単価の高い一体型FETの市場拡大を取り込む
⇒ 数量+5.8%、単価+2.6%
推定自社シェア91% (Q2末)
- **腹部stentグラフト 7.0%増収**
 - 他社と差別化されたモデルの訴求が奏功しシェアを拡大

コア製品

Frozen Elephant Trunk



Frozenix 4B

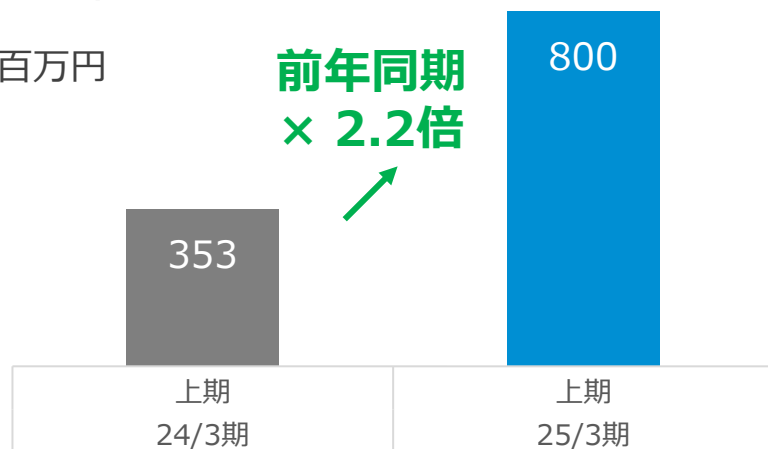


FET 人工血管一体型

商品ラインナップの拡充により販売シナジーが順調に拡大

脳血管関連 売上高

単位：百万円



市況認識

※前Qからの追記、変更を下線で示す

- 公定価格の改定の影響なし
- 脳血管内のデバイス治療は現在普及期、今後**CAGR8%程度の成長を予想**
- 参入企業が多いが、価格競争には陥っていない

上期 販売ハイライト

脳動脈瘤

・ 塞栓用コイル 前年同期比 1.8倍

- 導入したすべてのモデルが順調に拡大
- 追加の2モデルがドアオープナーとして採用施設拡大に寄与

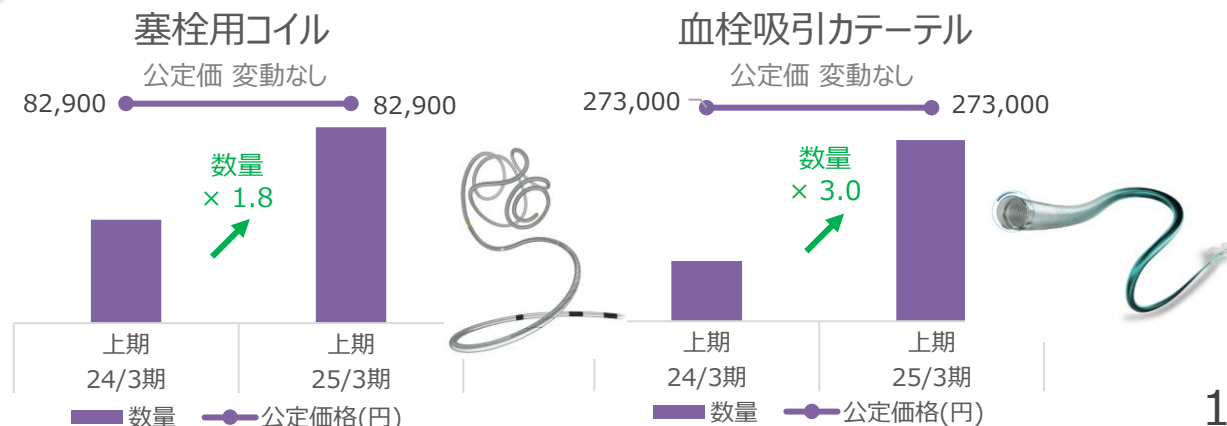
脳梗塞

・ 血栓吸引カテーテル 前年同期比 3.0倍

- 細径モデルの訴求が奏功し成長継続

・ Q2からステントリトリバーを販売開始 (次項で紹介)

注力商品



【新商品】ステントリトリーバー

既存領域(心臓)

リズム
デバイス

EP/アブ
レーション

心血管
関連

新領域

脳血管

消化器

JL Japan Lifeline

高度に差別化された脳梗塞治療デバイスを新たに展開

製品名	Wallaby Medical/phenox 社製 ステントリトリーバー「pRESET」(プリセット) 一般的名称：中心循環系塞栓除去用カテーテル
使用場面	- ステントを広げ、網目で血栓を絡めて取り除く - 脳梗塞治療の約8割で使用、血栓吸引カテーテル(上市済み)と併用される
販売	2024/9 販売開始 - 脳梗塞デバイスの主要デバイスがそろうため、今後シナジーによる売上加速を期待
市場	- 市場規模 50～70億円 - 中期で10～15%程度のシェアを目指す
主な特長	- 血栓を途中で取りこぼさない独自のステントデザイン - 業界トップ製品に劣らない確かな臨床成績*1

細い血管にも適応する
「らせん状」の切り込み

小さい網目↘

大小の網目の組合せで
回収力と操作性を両立

↑大きい網目

ステントの拡張力を
維持するリング形状

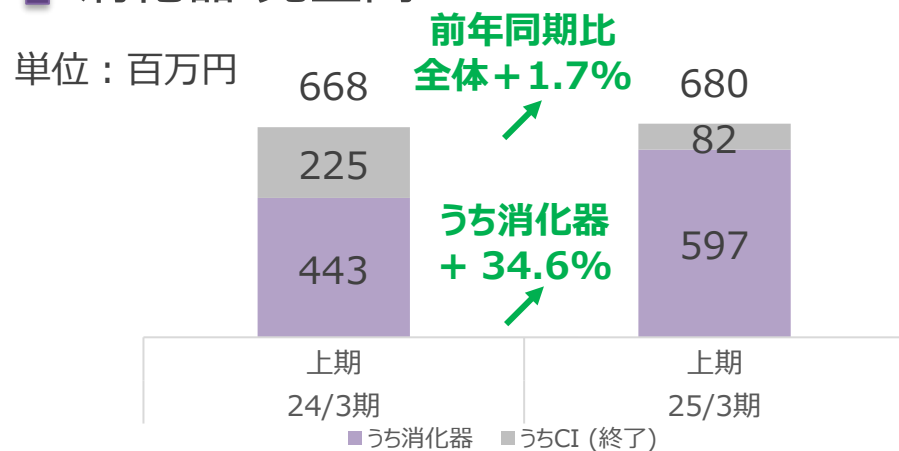
ステントリトリーバー「pRESET」
保険償還価格：386,000円

(2024/6時点)

*1 Hanel R, Klisch J, Möhlenbruch M, et al O-041 Primary results of the pRESET for occlusive stroke treatment (PROST) randomized clinical trial Journal of NeuroInterventional Surgery 2023;15:A33-A34. doi:10.1001/jamaneurol.2023.5010

主力の胆管チューブステントが続伸、消化管ステントもデコ入れ後伸びる

消化器 売上高



上期 販売ハイライト

- | | |
|-------------|--|
| 胆
膵 | <ul style="list-style-type: none"> 主力の胆管チューブステント 前年同期比 1.6倍 <ul style="list-style-type: none"> 希望小売価格での販売でマージンを維持 |
| 消
化
管 | <ul style="list-style-type: none"> 大腸用ステントは32%増収 <ul style="list-style-type: none"> モデル改良後、好調。製品ワークショップで販売を加速 胃・十二指腸用ステントを再上市 <ul style="list-style-type: none"> 評価良好、自主回収前の販売水準に迫る勢いで拡大 |

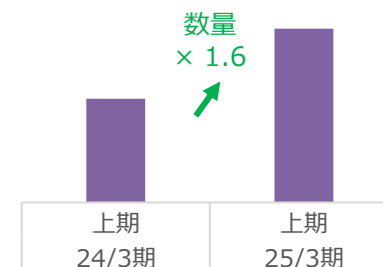
市況認識

※前Qからの追記、変更を下線で示す

- 胆膵処置具の市場は年率3~4%の増加
- 胆管チューブステントは公定価格が大幅に下落
 - 24/6は5%引き下げ
 - さらに、26/3にかけて累計35%の段階的な引下げへ

主力製品

胆管チューブステント



胆管チューブステント
「REGULUS」(レグルス)



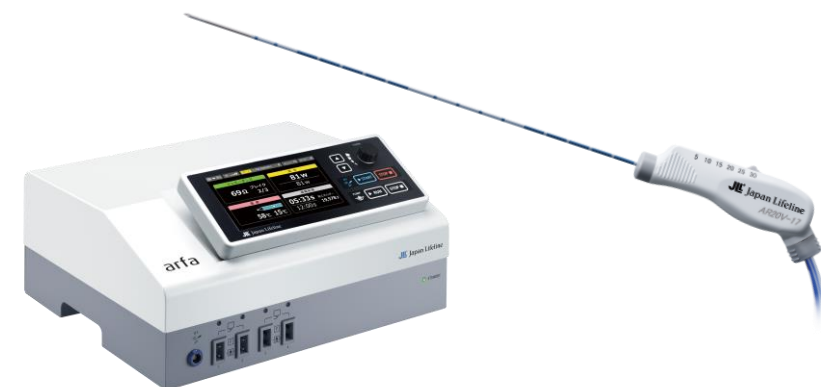
大腸用ステント
「JENTLY NEO
Colonic Stent」

自社製の肝臓治療用デバイスに関してテルモ社と販売提携、販売効率化を推進

- 肝臓治療用ラジオ波焼灼システム「arfa（アルファ）」について
テルモ社と独占販売契約を締結
- 今後、国内における販売をテルモ社に委託
- 期間は2025年4月から5年間の予定

[プレスリリース](#)

分野/ 参入年	消化器領域		
	消化管 2017年～	肝臓 2019年～	胆膵 2022年～
市場成長	年2-3%	縮小傾向か	年3%
主な自社製品	- 大腸用ステント - 胃十二指腸用ステント	肝臓治療用ラジオ波焼灼システム	胆管チューブステント等
方針	安定事業として継続	販売効率を推進	リソース集中



肝臓治療用ラジオ波焼灼システム「arfa（アルファ）」（自社製品）

01. 2025年3月期 上期決算報告

02. 質疑応答

Appendix 決算補足資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (<https://www.jll.co.jp/investors/>) からダウンロードできます。

WEB上でご質問の方 ※音声に不具合がある場合は、テキスト形式でご質問ください。

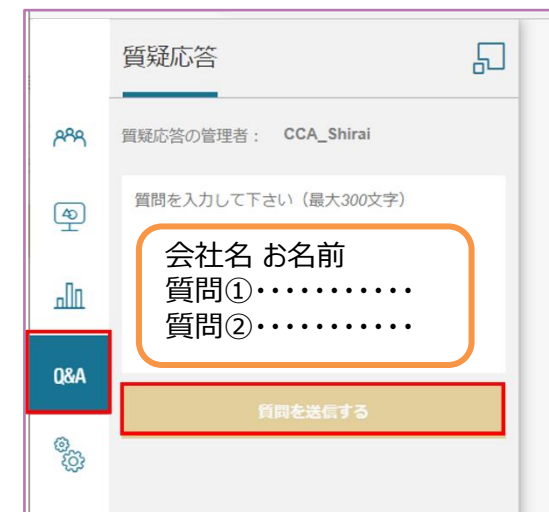
- 画面左側「QA」タブを選択し、「挙手する」ボタンを選択するか、メニューバーの「挙手アイコン」を選択してください。C-Meetingから「確認されました」の音声がかかります。
- 司会者がお名前をお呼びしましたら、右図の画面に自動で切り替わりますので、ビデオのオン・オフを選択し、「続ける」を選択してください。
- 質問を取り消す場合は、同じ画面左側「QA」タブを選択し、「挙手を取り下げる」を選択するか、メニューバーの「挙手取り下げアイコン」を選択してください。

(テキスト形式)

- 画面左側「QA」タブを選択し、質問を右図のようにテキストで入力の上、送信してください。
- 司会者が質問を選択するまでは、記載いただいたご質問内容の編集が可能です。また、途中でご質問を取り消す場合は、「質問を削除する」を選択してください。

電話でご質問の方

- ご質問のある方は、電話機のコメ印の後に 数字の「 1 」を押してください。
- 司会者がお名前をお呼びしましたら、会社名・お名前の後にご質問をお願いいたします。
- 途中でご質問を取り消す場合は、コメ印の後に 数字の「 2 」を押してください。



01. 2025年3月期 上期決算報告

02. 質疑応答

Appendix 決算補足資料

決算発表ごとにファクトシートを開示しております。(Excel/PDF)
当社ホームページ (<https://www.jll.co.jp/investors/>) からダウンロードできます。

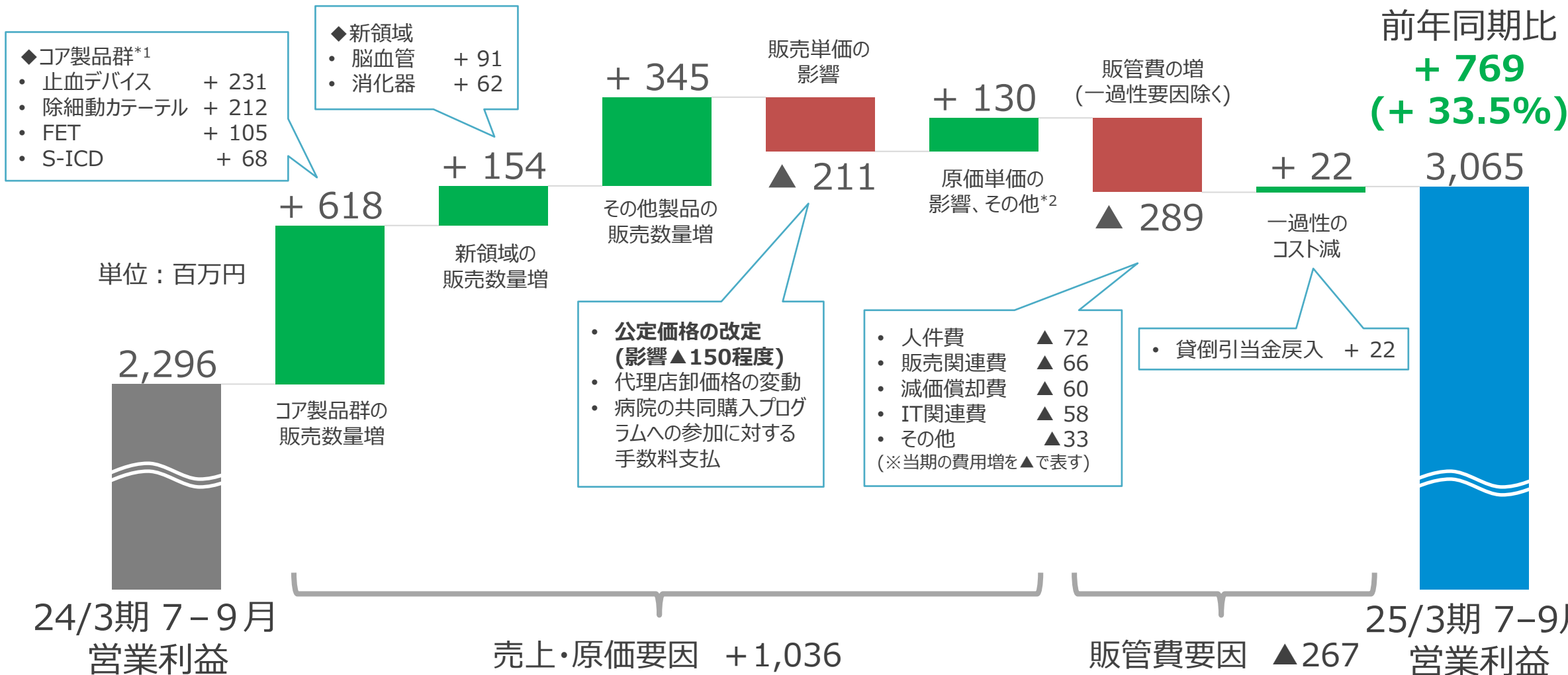
✓ 好調な販売により、売上と各利益は二桁成長を達成

単位：百万円	2024/3期 7-9月	2025/3期 7-9月	前年 同期比	前年 同期比%	コメント
売上高	12,177	13,974	+ 1,796	+ 14.8	(+) 症例増による販売増 (+) 新領域の拡大
売上総利益	7,343	8,380	+ 1,036	+ 14.1	(-) 公定価格の下落 (-) 自社製品比率が下落 (+) 自社製品の原価低減
%	60.3%	60.0%		▲ 0.3pp	
販管費	5,046	5,314	+ 267	+ 5.3	
営業利益	2,296	3,065	+ 769	+ 33.5	(-) 販管費の増 ※一過性のコスト増含む
%	18.9%	21.9%		+ 3.0pp	
中間純利益	1,703	2,094	+ 391	+ 23.0	(+) 税額控除の適用等 ⇒税負担率29.1%
%	14.0%	15.0%		+ 1.0pp	
自社製品比率	58.4%	57.0%		▲ 1.4pp	(-) 仕入品の拡大*1
1株当たり利益	22.32円	29.22円	+ 6.90円	+30.9	(+) 期中平均株式数 (自己株式除く)の減少

*1 仕入商品の売上高は前年同期比15%増加（自社製品は同8%増加）⇒ 主に脳血管関連やEP/アブレーションの止血デバイス等が寄与

2025/3期 Q2(7-9月) 営業利益の増減分析

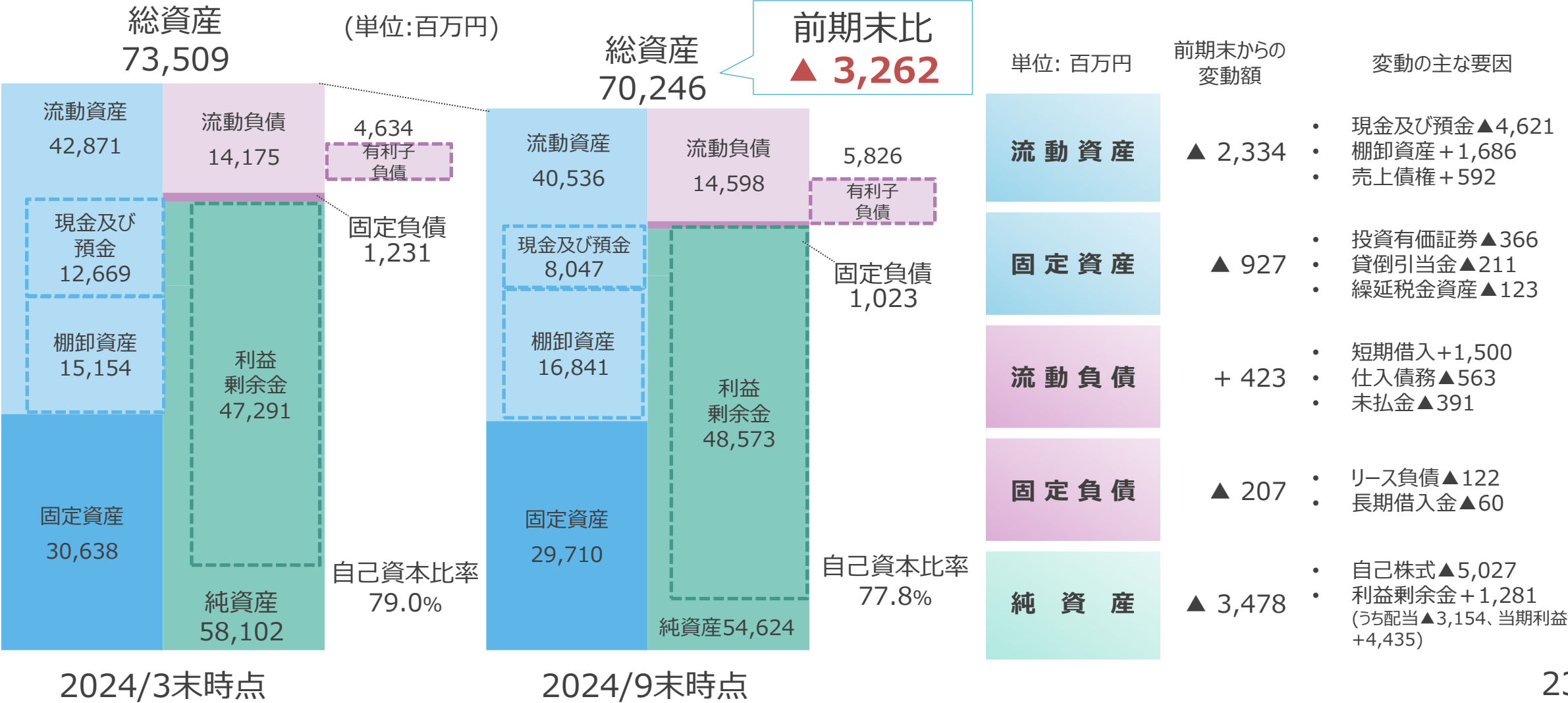
✓ コア製品群が大きくけん引、販管費増をカバーし大幅な増益



*1 競争力が強く特に注力する製品群 *2 製品廃棄・評価損の影響等を含む

2025/3期 Q2 BSサマリ (対前期末)

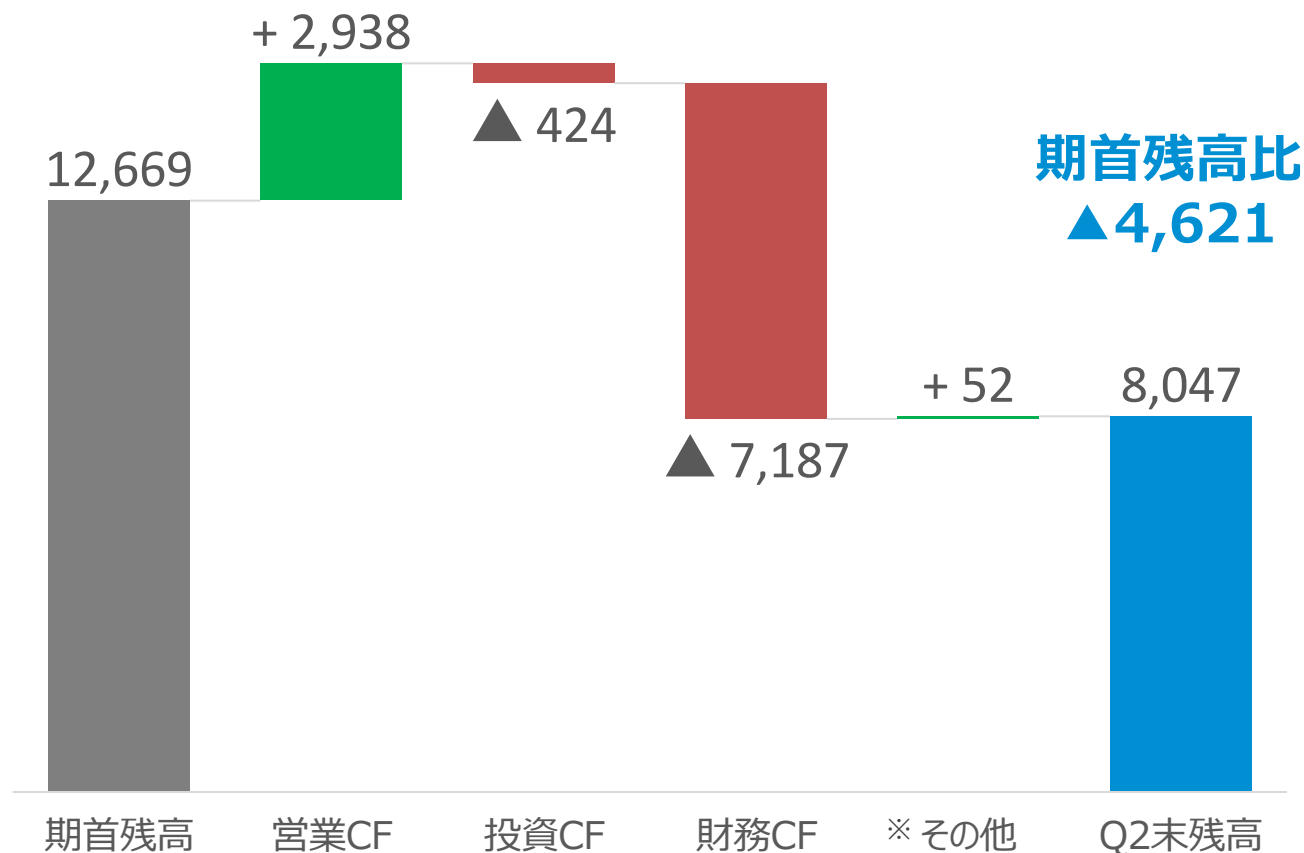
- ✓ 自己株式の取得、配当支払等により、前期末からバランスシートは縮小
- ✓ 堅調な事業環境の見通しの下、仕入強化や増産の対応をしたため、棚卸資産は増加



2025/3期 連結キャッシュフロー（Q2累計）

✓ Q2末時点で、現金及び現金同等物は、期首残高から▲4,621百万円減少

(単位:百万円)



※ 現金及び現金同等物に係る換算差額

■ 営業CF +2,938百万円

単位:百万円

【増 加】	税金等調整前四半期純利益	+ 6,179
	減価償却費	+ 861
	未払消費税等の増加	+ 331
【減 少】	棚卸資産の増加	▲ 1,684
	法人税等の支払額	▲ 1,564
	売上債権の増加	▲ 584

■ 投資CF ▲424百万円

【増 加】	投資有価証券の売却による収入	+ 1,023
【減 少】	有形固定資産の取得	▲ 802
	投資有価証券の取得	▲ 637

■ 財務CF ▲7,187百万円

【増 加】	短期借入金の増加	+ 1,500
【減 少】	自己株式の取得	▲ 5,225
	配当金の支払	▲ 3,154
	有利子負債の返済	▲ 308

品目別売上高の詳細

			2022/3期	23/3期	24/3期					25/3期					
			通期	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	上期	上期予	下期予	通期予
ペースメーカ関連	ペースメーカ、CRT-P、リード	百万円	5,899	4,979	1,344	1,208	1,371	1,316	5,241	1,381	1,098	2,480	2,430	2,230	4,660
ICD関連	S-ICD, CRT-D、リード	百万円	6,747	7,049	1,994	1,917	2,009	1,936	7,857	1,978	2,035	4,014	3,890	3,690	7,580
その他	AED	百万円	330	374	108	98	91	104	402	109	121	231	220	230	450
リズムデバイス		百万円	12,977	12,403	3,446	3,224	3,472	3,356	13,501	3,469	3,256	6,725	6,540	6,150	12,690
前年比		%	-2.0	-4.4	+11.4	+0.8	+12.5	+11.1	+8.9	+0.7	+1.0	+0.8	-2.0	-10.0	-6.0
EPカテーテル	心腔内除細動カテーテル「BeeAT」、食道温カテーテル	百万円	18,412	19,654	5,578	5,213	5,244	5,175	21,211	5,971	5,711	11,683	11,350	10,930	22,280
ABLカテーテル	内視鏡レーザーアブレーションカテーテル「HeartLight」	百万円	1,232	1,011	228	187	200	223	840	204	187	392	390	370	760
その他	止血デバイス、ステーラブルシース	百万円	5,455	5,626	465	470	564	696	2,197	925	1,122	2,047	1,740	2,200	3,940
EP/アブレーション		百万円	25,099	26,292	6,272	5,872	6,009	6,095	24,249	7,101	7,021	14,123	13,480	13,500	26,980
前年比		%	+5.2	+4.8	-5.9	-7.5	-7.0	-10.6	-7.8	+13.2	+19.6	+16.3	+11.0	+11.5	+11.3
人工血管関連	フローズンエレファントトランク、人工血管、腹部ステントグラフト	百万円	9,368	10,353	2,639	2,441	2,949	2,926	10,956	2,686	2,720	5,406	5,200	5,880	11,080
その他	心房中隔欠損閉鎖器具	百万円	748	423	78	133	120	117	449	97	151	249	200	210	410
心血管関連		百万円	10,117	10,776	2,718	2,574	3,069	3,044	11,406	2,784	2,871	5,656	5,400	6,090	11,490
前年比		%	+1.5	+6.5	+5.0	+4.5	+6.7	+7.0	+5.9	+2.5	+11.5	+6.9	2.0	-0.4	+0.7
脳血管関連	塞栓用コイル、血栓吸引カテーテル	百万円	12	230	135	218	269	289	912	347	452	800	640	980	1,620
脳血管関連		百万円	12	230	135	218	269	289	912	347	452	800	640	980	1,620
前年比		%	-	+1753.6	+473.3	+537.9	+270.1	+191.1	+296.7	+157.5	+107.0	+126.3	+81.0	+75.4	+77.6
消化器関連	胆管チューブステント、大腸ステント、肝がんコードル	百万円	453	654	220	223	238	242	925	273	324	597	540	680	1,220
その他	終了事業（コロナリー・インターベンション、IDPI関連）	百万円	2,808	1,394	161	63	110	53	388	33	48	82	-	-	-
消化器		百万円	3,261	2,048	381	287	349	296	1,314	307	373	680	540	680	1,220
前年比		%	-22.4	-37.2	-36.4	-39.3	-31.4	-36.3	-35.8	-19.6	+29.9	+1.7	-19.3	+5.3	-7.2
連結売上高		百万円	51,469	51,750	12,954	12,177	13,170	13,081	51,384	14,010	13,974	27,985	26,600	27,400	54,000
前年比		%	+0.4	+0.5	-0.1	-2.7	+1.2	-1.3	-0.7	+8.2	+14.8	+11.4	+5.8	+4.4	+5.1

事業環境 現時点から6か月先の見通し

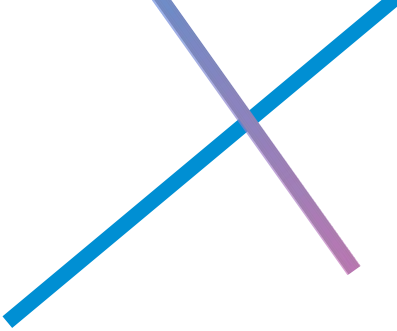
- ✓ Q単位で売上高に影響する要素をポジティブ、ニュートラル(前Qから状況変わらず)、ネガティブの3段階で表す
- ✓ 前回の見解から変更がある場合は、前回の見解を併記してコメントを赤字で記す

メイン区分	サブ区分	2025/3期 Q2 実績	2025/3期 Q3 予想	2025/3期 Q4 予想
リズムデバイス	ペースメーカ関連	 公定価改定による単価下落、リコール関連の交換減、他社リードレスの拡大	 直前Qから大きな傾向の変化を見込まない	 他社リードレスのさらなる拡大、 営業日数減※全品目共通(Q3 63⇒Q4 57)
	ICD関連	 前回: ↓ S-ICD好調 、T-ICDで単価下落	 前回: → S-ICD堅調、ただし交換需要やや減少か	 直前Qから大きな傾向の変化を見込まない、 営業日数減
EP/アブレーション	EPカテーテル	 AF症例 YoY+約10%、公定価改定による単価下落	 前回: ↗ AF症例 YoY+8~10% 想定	 AF症例(営業日数調整後) YoY+8~10%想定、 営業日数減
	ABLカテーテル	 HeartLight X3販売鈍い	 直前Qから大きな傾向の変化なし	 直前Qから大きな変化なし、 営業日数減
	その他	 止血デバイス続伸、ステーラブルシースの新製品寄与	 直前Qより販売モメンタムが加速	 直前Qより販売モメンタムが加速、 営業日数減
心血管関連	人工血管関連	 前回: → FET^{*1}の市場拡大 、人工血管は単価下落	 季節性の症例増、FET販売機会最大化	 販売環境は良好継続、 営業日数減
脳血管関連	脳血管関連	 販売好調 、ステントリトリーバー発売	 新製品の販売寄与、シナジー加速で既存品続伸	 直前Qより販売モメンタムが加速、 営業日数減
消化器	消化器(消化管、胆膵)	 大腸&胃十二指腸ステント好調、胆管チューブ続伸、胆管バルーン再上市	 前回: ↗ 胆管チューブなどの伸び一服、新製品の市場投入(ダブルルーメンガイド等)	 新製品寄与、既存品持ち直し、 営業日数減

*1 FET=フローゼンエレファントトランク
(旧呼称: オープンステントグラフト)

凡例:  前Qより(さらに)上向き  前Qから概ね横ばい 良好な環境は継続  前Qより(さらに)下向き  前Qから概ね横ばい 好ましくない環境は継続

商 号	日本ライフライン株式会社
代 表 者	代表取締役社長 鈴木啓介
本 社	東京都品川区東品川2-2-20 天王洲オーシャンスクエア
設 立	1981年2月6日
上 場 市 場	東京証券取引所 プライム市場
証 券 コ ー ド	7575
事 業 内 容	医療用機器の製造、販売、輸出および輸入販売
資 本 金	2,115百万円
決 算 期	3月31日
従 業 員 数	連結1,216名/単体972名(2024年9月30日 現在)
事 業 所	営業拠点48ヶ所、羽田ロジスティックスセンター、関西ロジスティックスセンター、 研究開発統括部、戸田ファクトリー、小山ファクトリー、市原ファクトリー、 天王洲ACCADEMIA(研修センター)(2024年9月30日 現在)
連 結 子 会 社	JLL MALAYSIA SDN. BHD.



ご注意事項

本資料に記載されている内容の中で、歴史的事実ではないものは、当社の将来に対する予測です。特に、新商品や製品の導入、治験、薬事承認、そして発売時期については、過去の経験や利用可能な情報に基づいて当社が予測しています。しかし、様々な要因により、実際の業績は本資料で述べられている見通しと異なる可能性があります。そのため、これらの見通しに過度に依存しないでください。また、本資料には未承認の製品に関する情報が含まれている場合があります。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部

TEL:03-6711-5214

E-Mail:ir@jll.co.jp

URL:<https://www.jll.co.jp>